

# タイ奨学金 里親プロジェクト 第2回里親ツアー 参加者報告

## タイ里親訪問ツアーを終えて

平林 真由子さん (大学生)

今回のこのツアーは、私の想像をはるかに越えたすばらしい内容でした。このタイで過ごした7日間は、文章にて原稿用紙に何十枚、何百枚綴っても到底書ききれません。初めての経験、体験、出会いや別れ、そこから様々な事を感じ考えさせられました。

以前から海外への興味が強く、一度留学や旅行をしてみたいと思っていました。実際今回の訪問を終えてつくづく感じる事が、ただ遊びに行く旅行では得られなかった内容だったということです。現地に着くやいなやツアーガイドの人々、関係者の方々、生徒達が素敵な笑顔で手厚く歓迎してくださり、とても心あたりました。首に掛けてくれた生花の首飾りの香りは今でも鼻の奥に残ります。

母の里子であるバンデットくんとのお出合いはとても心に残っています。彼の家へ直接訪問する事ができ、日本にいたのでは、実際に見て感じる部分は知ることができませんでした。盛大に歓迎して下さったよるのキャンプファイヤーでは、華麗な踊りや儀式の際の舞、ムエタイ、歌などの催しを披露してくださり、目を奪われました。

子供達と言葉は通じませんが、必ず目があう度に挨拶をしてくれ、今の日本に欠けている部分だなと感じました。

今回のツアーでは、食事、ホテル、交通の便など、豪華な上に、充実しており、企画、手配をして下さったタイ奨学金里親プロジェクトの皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

またメンバーの方々にも本当にお世話になりました。

今後この経験を自分の生活に活かして行きたいです。

皆様、素敵な旅をありがとうございました。



右が平林さん、左が小林さん

## タイという国を訪れて

小林 玲那さん (大学生)

今回のタイ旅行は私が生まれて19年の中で初めての海外旅行だった。一応タイの本など買って少し予備知識をつけようとはしたものの、タイに着くまで、水は大丈夫か、食べ物は大丈夫か、そして何より現地の人とコミュニケーションはとれるか、周りの人はどんな人なのだろうと、何かと不安だった。しかし、タイに着くやいなや私の不安のひとつは消えた。どこかの学校の子供たちがニコニコしながら出迎えてくれたのだ。私はこのとき本当にビックリしたし、本当に感動した。まったく知りもしない私の首に手作りの花輪をかけて、手を合わせて挨拶してくれる子どもたち。日本を引き合いに出すのはおかしいかもしれないが、正直日本じゃありえないことだった。

子どもだけでなく、タイの人は目が合うとかならずとっていいほど、ニコリと笑いかけてくれる。ただニコリとするだけ、されるだけで、とても心の中が穏やかになった(これは今後の教訓になると思う)。

もうひとつ、非常に印象的だったのは、ある学校をおとす時のことだ。私たちはひとつひとつの教室をのぞいて、子どもたちの授業を参観して回った。(ここでも目が合うと必ずニコリとしてくれる)

ひと通り見てまわり、先生たちのお話も終わり、私たちは移動のため、車に乗り込んだ。車が発車すると、子どもたちが教室の外のベランダまで出てきて手を振ってくれた。二、三人ではなく、クラス全員なのではないかという人数がベランダに出て、みんなニコニコして手を振ってくれていた。純粋な好意が本当にストレートに伝わってきて、涙が出た。

今回、奨学金プロジェクトということで、一応支援という形で与える側だったが、むしろ私はもっともっと大事で、ずっとわすれていたものをもらってきた気がする。確かに生活水準は低いのは否めない。しかし心は豊かな国なのだと私は思う。